第２回芸術文化プロモーション部会議事要旨

|  |  |
| --- | --- |
| 日　　時 | 令和７年３月２７日（木）　１６：００～１７：００ |
| 場　　所 | 東京都庁第一本庁舎４２階　特別会議室C |
| 出 席 者 | 委員：秋元部会長、松任谷委員、山田委員、湯浅委員、宮城委員  事務局：蜂谷文化振興部長、伊東企画調整課長、桜井文化政策担当課長、富山文化政策担当課長、阿部文化事業課長 |
| 欠 席 者 | 片岡委員 |
| 議　　題 | 東京国際芸術祭（仮）の取組案について |
| 配布資料 | 芸術文化プロモーション部会専門委員一覧　他資料は非公開 |
| 要旨 | |
| □議題１　東京国際芸術祭（仮）の取組案について  　事務局　「東京国際芸術祭（仮）の取組案」について資料に基づき説明    　秋元部会長　・多くの人を呼び込むには予定調和では難しい。賛否両論が起きるくらいの起爆剤が必要。人を動かす仕掛けと会場、メディア展開など具体的に進めなければいけない。  ・2025年では2026年に向けた準備過程を見せられないか。  2025年の小さなバトンを30年つなげて世界が認めるイベントにする、そういうスタートを切る気概が求められている。  　　　　　　　・この部会での議論の熱量を継続させることが必要。次回に向けて経常的に意見交換し各自アイデアや報告を出し合っていこう。  松任谷委員　・国際芸術祭と聞いて、そういうイベントがいつどこでどのように行われているのかが誰にでも分かるようにする仕掛けが大切  　　　　　　・芸術祭への賛同者を募るうえでもテーマは必要  山田委員　 ・新たな国際芸術祭としてのスタートが肝心。新しいことが起こる見え方が次につながる。既存の催しを束ねて事業強化するだけでは難しい。  　　　　　 ・アイデアやビジョンを形にして全体主導する実行部隊が必要  　宮城委員　・プロモーション部会としては、2025年秋に実行委員会でさっそく実施しなければならないことと、2026年以降に芸術祭として大きく展開していきたいことを並行して検討していかなければならない。  　　　　　　・大きなムーブメントを生んだUSA for Africaやバングラディシュ･コンサートには賛同者を集める大きなテーマがあった。そういうテーマを掲げることが重要  湯浅委員　・東京国際芸術祭の目的やターゲットを明確に設定する必要がある。たとえば「国際性の発信」といっても、国内外のどの層に対して、どのような効果を期待するのかを具体的に定義することが重要。ターゲット層をより細かくセグメントし、それぞれに応じたプログラムや施策を設定するのが良いのではないか。  （事前聴取）  片岡委員　 ・お台場トリエンナーレに代わる国際的美術展についてエリア拡大や名称変更に賛同。国際的な美術展を目指す上では言語を超えて理解できる名称が求められる。  　・グローバルな認知と評価につながる高次のプラットフォームを創出し、そうした場での若手アーティストの活躍機会を生むことが重要  ・都内の美術館やアート機関とも連動して東京全体で芸術祭を盛り上げていくべき  意見交換の結果、次回も引き続き、東京国際芸術祭の目玉企画となるアイデアを議論することとなった。  以上 | |